

# がん・緩和専門認定薬剤師について



薬剤部 副部長 木村 直也 (がん薬物療法認定薬剤師)

## はじめに

医療は医学や薬学の進歩と共に高度で複雑化しています。

医師をはじめとした医療スタッフは、患者様に最善の治療を提供するために多職種がチームを組み、連携して治療にあたっています。

このチーム医療の一員として医師や看護師と共に臨床の現場に立ち、安全かつ効果的な薬物治療を行うために活躍している薬剤師が増えています。

最近では様々な新規抗がん剤も登場し、専門領域における最新の知識と技能が薬剤師にも求められるようになってきました。

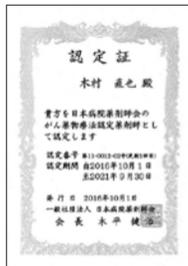
このような背景から誕生したのが「専門認定薬剤師」です。

## がん医療で活躍する薬のエキスパート

専門認定薬剤師は各専門領域の医学薬学の知識と薬物治療に関する高度な知識・技能を持っていると認められた薬のエキスパートです。

医療の現場で有益な最新の薬学的情報を提供し患者様への治療が安全かつ効果的に行えるように支援しています。

草加市立病院薬剤部では、がん薬物療法認定薬剤師2名、外来がん治療認定薬剤師2名、緩和薬物療法認定薬剤師2名、麻薬教育認定薬剤師1名のがん領域における多くの薬のエキスパートが活躍しています。



## がん・緩和専門認定薬剤師の使命

様々な新規抗がん剤によりがん治療成績も向上してきた一方で、その使用方法や取り扱いには十分な注意と厳正な管理が必要になります。

実際に抗がん剤治療を実施するには薬用量、治療間隔、肝臓・腎臓機能等を十分に考慮した上で、数多くの治療法の中から最適な治療法を選択します。

がん専門認定薬剤師は、患者様の病状と薬の設定を照らし合わせることで最善の組み合わせの治療法であるか、副作用対策は万全であるか等を医師と協議を重ね確認していくことが大きな使命となっています。

また、がんの患者様には身体的な痛みだけではなく日常動作の制限の悩みや精

神的な悩みなど様々な悩みがあります。

これらを和らげる緩和療法においても医師、薬剤師、看護師等が医療チームを結成し、それぞれが得意とする専門分野で協力し合っています。

緩和専門認定薬剤師は痛みに対する薬物治療に精通しており、身体的な苦痛を和らげるために患者様のそばに寄り添い、痛みの強さに応じた適切な薬の組み合わせを医師へ提案支援をしています。

## おわりに

以上のように、私たち薬のエキスパートは、がん医療に係る全ての薬に対する高度な知識・技能を持ち、常に最新の情報を収集して安全かつ効果的な質の高い薬物治療に努め、がん医療の発展のために日々努力をしています。

# 腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る検証委員会の報告を受けて

## はじめに

当院では、腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る問題が発生したことをうけ、平成30年5月15日に「腹腔鏡下子宮がん手術及び診療報酬請求に係る検証委員会(以下、「検証委員会」という。))」が設置されました。検証委員会は学識経験者、医師、弁護士、行政機関職員、草加市の副市長の7名で構成され、本件に係る原因調査及び検証、必要な改善策について検討されました。

検証委員会は20回にわたって開催され、平成31年3月28日に報告書がまとめられました。

報告書には「草加市立病院には、本委員会として猛省を促し、こうしたことが今後起こらないように、内からの再生の仕組みを基本的に提言した。」とあり、右のように提言を受けております。

## 検証委員会からの提言事項(報告書抜粋)

- 1 マネジメント体制の改革
- 2 医療体制の再構築
- 3 事務部の改革と診療報酬請求業務の改善

報告書については草加市立病院ホームページから確認ができます。

<http://soka-city-hospital.jp/m06/m06/sinryouhoushu2.html>



## 提言を受けて

当院では検証委員会からの提言を受けて、次のように取り組みを行っております。

<1 マネジメント体制の改革>では、委員会規約の見直しや、病院内部組織の機能強化と充実に資する事を目的として、令和元年7月5日に内部統制者として井出健治郎氏が就任されました。

また、当院の管理運営及び提供している医療について第三者機関から評価・認定を受ける為に、病院機能評価受審の取り組みを行っております。

<2 医療体制の再構築>では、倫理審査体制強化のため高難度新規医療技術等評価部門など新たな部門を設置しました。また、病院機能評価の取り組みを進めることにより、診療の質の向上に資する体制を整えております。

<3 事務部の改革と診療報酬請求業務の改善>では、医療事務部門に経験者を採用し、体制の強化と責任・業務分担の明確化を図っております。

今後も信頼回復に向けて職員一同、一丸となって取り組んでまいります。

## 断らない医療の実現とがん診療の充実

草加市病院事業管理者 河野 辰幸

当院は新築移転した2004年以降、地元病院・診療所(一次医療機関)との業務分担を前提に高度の急性期医療を担う二次医療機関として整備を進めてきました。地域の公的基幹病院としていわゆる政策医療を担い、心臓・脳血管、小児の領域を含む救急車対応は埼玉県東部医療圏でトップの実績ですが、なお市民のニーズへ十分には応えきれ

ていません。また、病状の安定した患者さんの当院再診希望が強いため、二次医療機関での診療を必要とする新規患者さんの紹介を迅速には受けられないという深刻な課題も抱えています。

本号では市立病院におけるがん診療への新たな取り組みをご紹介します。当院では年間約1,000人のがん患者さんが新たに登

録され、大腸癌など一部のがんに対する診療実績は埼玉県内でもトップクラスであるなど、有数のがん診療施設でもあります。管理者として2年目の現在まで婦人科腹腔鏡手術関連問題への対応に追われてきましたが、今後は救急要請や紹介を断らない医療の実現とがん診療の更なる充実を図り、病院理念の実現に力を入れていきます。

